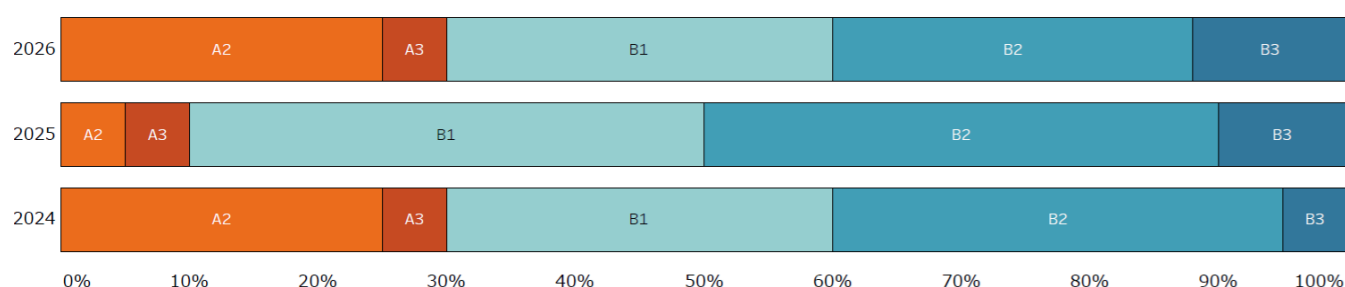


2026 年 浦和明の星女子 算数（第 1 回）

過去 3 年の思考コード別出題割合は次のようになります（A は基礎的な知識・技術、B は論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。出題分野の構成は、ほぼ例年通りでしたが、2025 年と比べるとなじみの問題が増え、取り組みやすい印象を受けました。大問 3 までキッチリ取り、大問 4 以降の取れるところで得点を積み重ねていくことになると思います。



例年同様、大問 1 が計算・一行題、大問 2 以降が大設問の構成でした。大問 1 は、確実に得点しておきたい問題が並びます。(5)、(6)、(7)では①、②とステップがあり、取り組みやすくなっていました。(1)の計算は手間がかかりますが、焦らず確実に得点したいです。(2)～(5)は、一度は目にしたことのある基本的な問題で、どれも正解したいです。(6)は、数を推理する問題です。条件から数が確定できるので、見た目ほど手間がかからないと思います。(7)は、反射の問題です。苦手とする受験生も多い分野ですが、反射の基本が身に付いていれば取り組みやすい問題と思います。

大問 2 は、3 種類の食塩水です（2025 年も 3 種類の食塩水で「蒸発」が出ていました）。食塩水のやり取りを整理していくことで答えにたどり着ける基本的な問題です。(3)まで確実に得点しておきたいです。大問 3 は、速さの隔たりグラフです。浦和明の星でも過去に出題がありました。類題に取り組んだことがある受験生も多いと思います。ここも(3)まで得点しておきたいです。

大問 4 は、差集め算です。ここで一気に難度が上がりました。苦手とする受験生も多い分野となるため、全く手が付かなかった受験生も多数いたと思います。箱の入れ方の違いから生まれる「差」に注目します。「大きな箱 6 と小さな箱 3」「ミカン $101 + 25 = 126$ (個)」「大きな箱 9 と小さな箱 18 とミカン 101 個」を利用してミカンの個数を求めます。(2)は手間がかかるため、見送って次の問題に進んでよいと思います。

大問 5 は、浦和明の星で頻出の調べる問題です。題意がとらえられず、(1)①の解答で終わってしまった受験生も多かったと思います。「隣り合う差が 1 になる」ため、右に +1 進むとき、何番目かで -1 することになります。つまり、右に +1 ずつ \square 回進むとき、どこで 1 回だけ -1 するかを調べる場合の数と置き換えることができます。(2)①では、1 番目に 0 が入る点に注意します。

大問 1～大問 3 は確実に取っておきたいです。大問 1～大問 3 で取りこぼしがあると大きな差となります。しっかり得点を確保したうえで、大問 4、5 の取れそうなところに残り時間を使うといったところでしょうか。